

大森駅周辺地区グランドデザイン策定 検討資料

I	大森駅周辺地区の再分析	1
II	大森駅周辺地区の課題の再整理	4
III	まちの将来像の再検討とまちづくりの基本方針	5
IV	まちづくりの基本方針とアクションプラン（具体的取組み）の検討	6

大田区

I 大森駅周辺地区の再分析

蒲田駅周辺地区の歴史 (蒲田区⇒大田区)

- ・蒲田は湿地帯が多く、田園の広がる農業を中心とした村だった。
- ・明治37年、旧国鉄蒲田駅の開業により、住民が増加。商店街の発展が始まった。
- ・大正5年、黒澤貞次郎氏がタイプライター製造工場を建設。田園都市思想のもと、敷地内に従業員のための社宅・菜園・学校等施設を建設し、蒲田の地に理想郷的工場村を作った。この他、大倉陶園、新潟鉄工、高砂香料などが設立し、新興工業地帯が誕生した。
- ・大正9年、松竹蒲田撮影所が開業。蒲田駅周辺には映画スターも多く住み、「流行は蒲田から」と言われるほどの華やかさと活気があった。
- ・大正11年に池上線、大正12年には旧目蒲線が開通した。

大森駅周辺地区の歴史 (大森区⇒大田区)

- ・江戸時代は農漁村であった。また、大森などでは昭和38年まで海苔の養殖が盛んに行われていた(約300年間続いた)。
- ・明治9年に日本で3番目の駅として大森駅が開業した。明治10年にモース博士が大森貝塚を発見。
- ・大正時代に入ると、大きな企業が進出し、昭和30年代以降は中小工場が進出し、工業の集積が進み、産業のまちとして全国に知られるようになった。
- ・臨海部は埋め立て地となっており、昭和42年以降、平和島などの人工島が造成され、水辺には公園などの親水空間が形成されている。
- ・台地部は住宅化が進み、低地部は住宅と工場が混在する商・工業地域を形成してきた。
- ・大正末期から昭和初期にかけて、馬込文士村には多くの文士や芸術家が住み、交流を深めていた。

区の基本的な考え方 (おおた未来プラン10年)

<蒲田駅周辺地区>

世界への玄関口となる羽田空港を活用し、大田区の中心拠点にふさわしい魅力と活力あるまち蒲田を目指す。

<大森駅周辺地区>

歴史と文化と浜風かおる、にぎわいと交流のあふれるまち大森を目指した駅周辺のまちづくりを推進する。



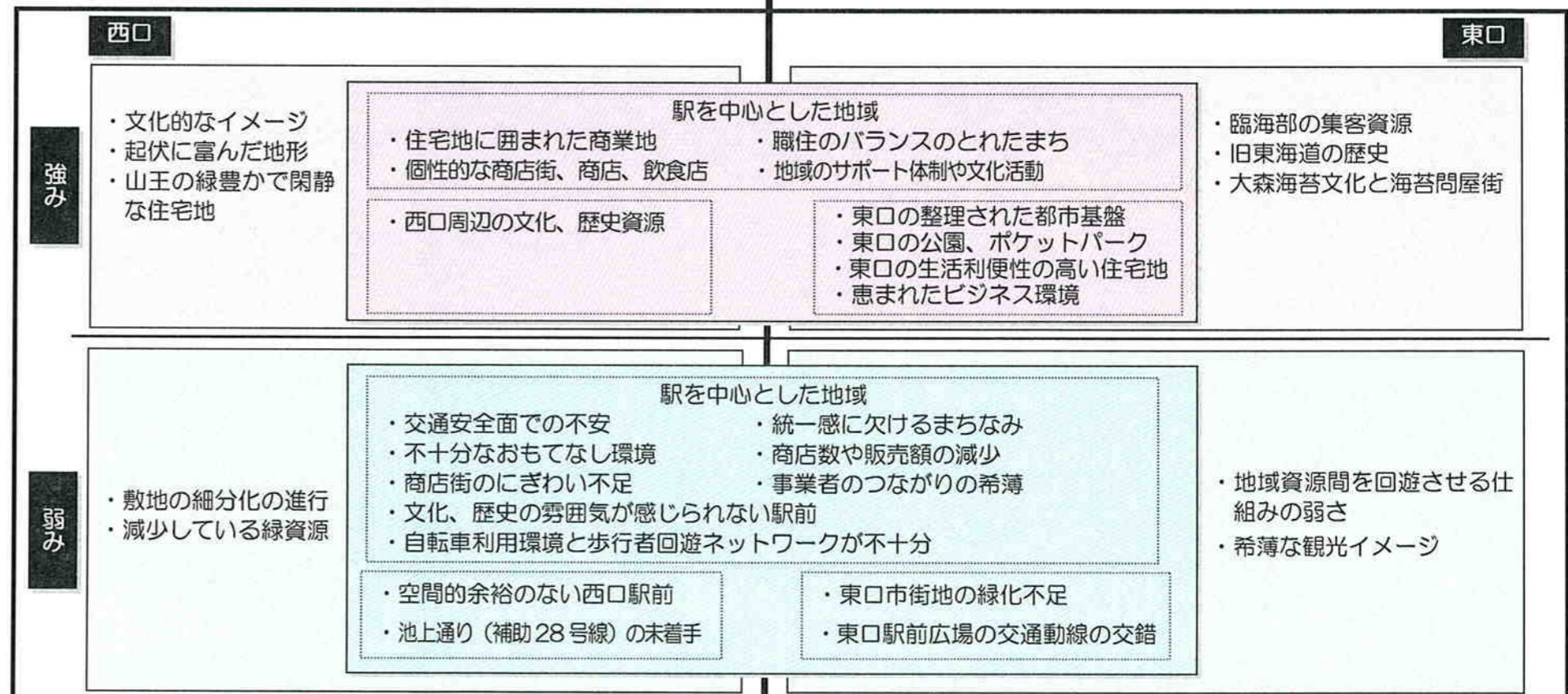
羽田空港の国際化

蒲田駅周辺地区の『まちの将来像』

にぎわいあふれる多文化都市、誰もが安心して気持ちよく過ごせるひとにやさしい蒲田

<基本方針>

- 商業・にぎわい・交流の創出
- 都市機能の向上
- まちの快適性の確保



西口(台地部)

- 文士や芸術家が文化・歴史資源
- 緑豊かで起伏の富んだ、閑静な住宅地

台地部と臨海部それぞれの歴史に培われた文化が交わる地域

東口(臨海部)

- 大森の海苔文化や旧東海道といった歴史・文化
- 臨海部の集客資源と公園等の憩い空間

【ランドデザインの対象区域（案）】

【ランドデザインの対象区域（案）】

①ランドデザイン検討範囲の考え方

大森駅東西において、互いに性質の異なる資源（歴史・文化等）が、広範囲に分布している。これを『大森らしさ』と捉え、ランドデザインを検討していく際には、それらの資源にも考慮しながら、引き立て、検討していくことが重要である。

②ランドデザインの対象区域（案）

ランドデザインを検討するにあたり、地形や徒歩駅勢圏（半径1km）、都市基盤、都市計画、土地利用状況等を踏まえ、駅を中心とした核（コア）部分として、ランドデザインの対象区域を設定する。

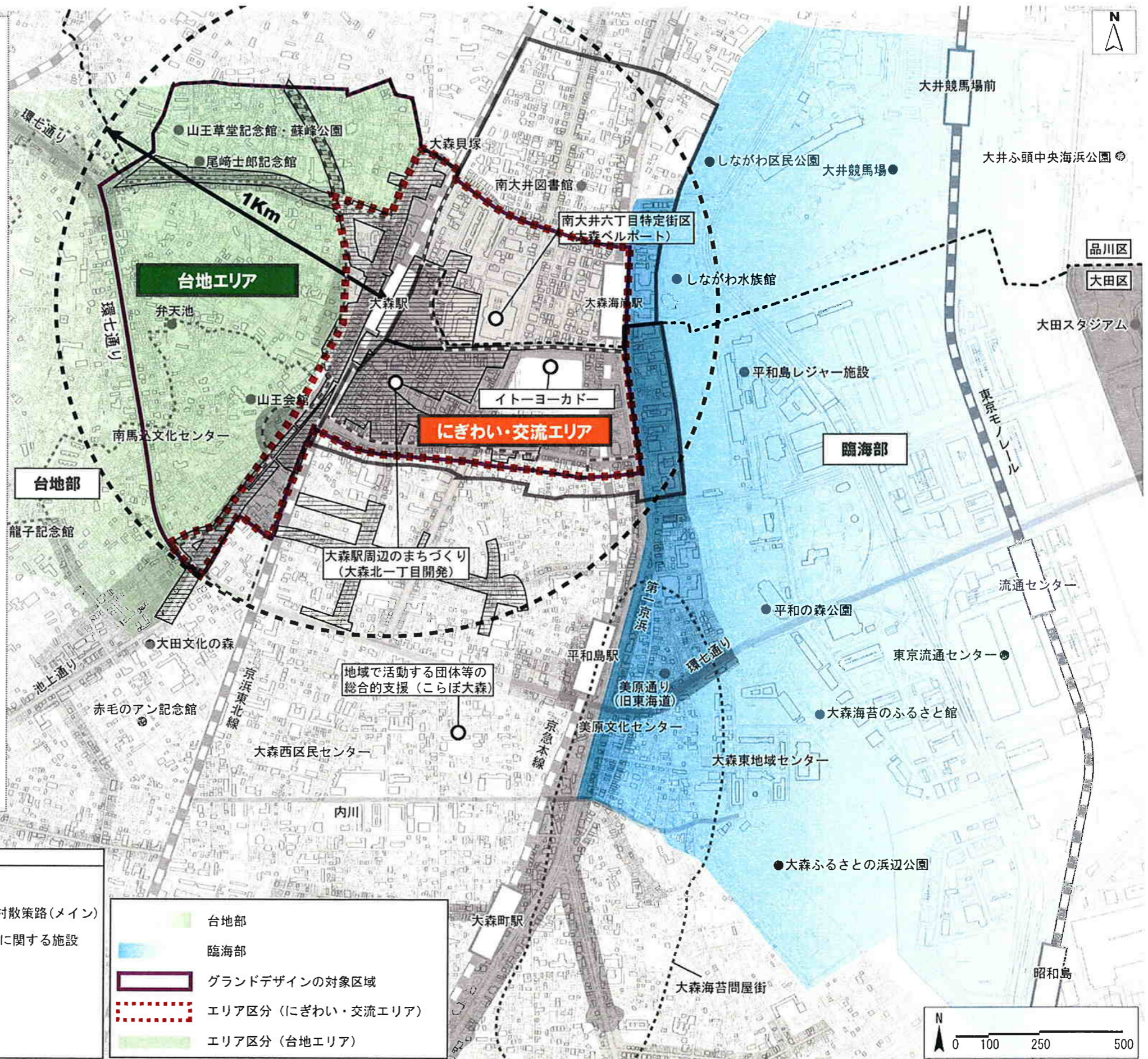
③ランドデザイン対象区域のエリア区分（案）

人を呼び込みにぎわいや活力を創出する役割を担うエリアを『にぎわい・交流エリア』とし、中心市街地活性化基本計画におけるエリアおよび用途地域、商店街状況等を踏まえ、設定する。

また、居住者を中心とした閑静な住宅地を形成・保全していく役割を担うエリアを『台地エリア』とし、居住者の活動範囲（駅徒歩勢圏（1km）や都市基盤の状況、まちのまとまり等を踏まえ、設定する。

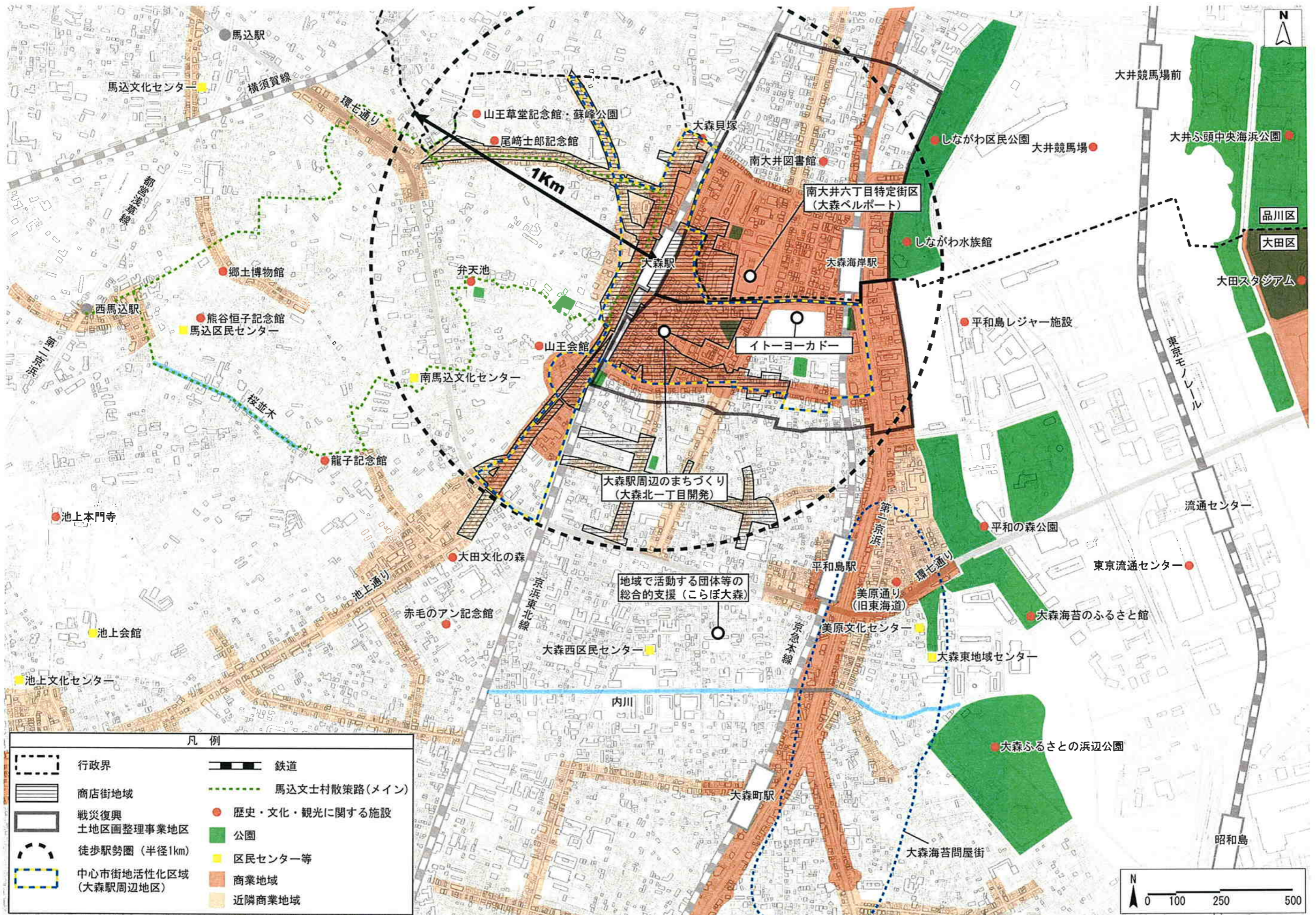
（その他）

- ・ 区域外（臨海部・台地部）の資源・特徴等についても考慮することとする。
- ・ 品川区と連携を図りながら、検討を進めることとする。
- ・ にぎわい・交流エリアの品川区内部分は、品川区で位置付けを検討中。



凡例	
	行政界
	商店街地域
	戦災復興 土地区画整理事業地区
	徒歩駅勢圏（半径1km）
	中心市街地活性化区域 （大森駅周辺地区）
	鉄道
	馬込文士村散策路（メイン）
	歴史・文化・観光に関する施設
	区民センター等
	商業地域
	近隣商業地域
	台地部
	臨海部
	ランドデザインの対象区域
	エリア区分（にぎわい・交流エリア）
	エリア区分（台地エリア）

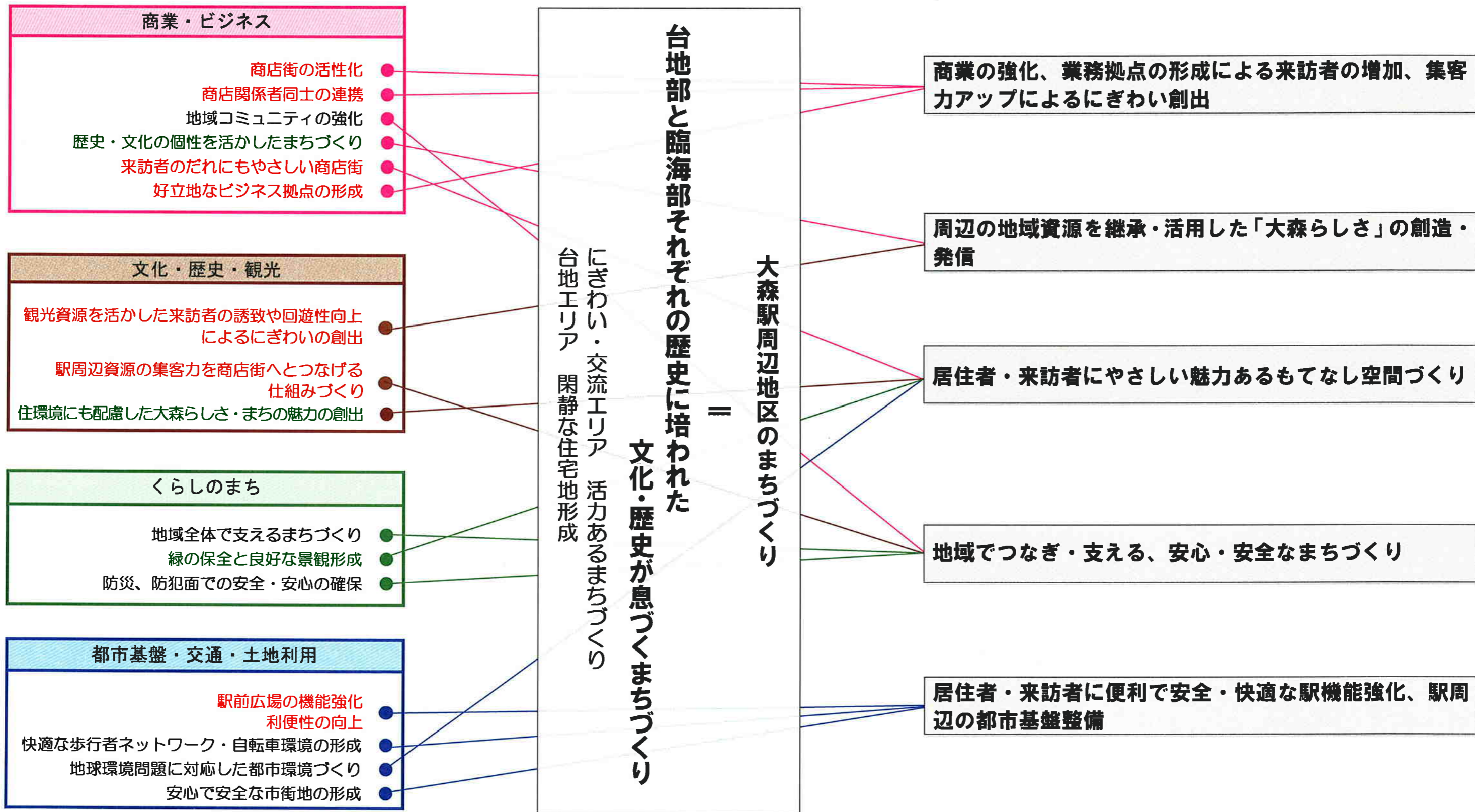
【参考：大森駅周辺地区 事業・資源等プロット図】



II 大森駅周辺地区の課題の再整理

〔大森駅周辺の特徴（強み・弱み）からみた課題〕

〔大森駅周辺地区としての課題〕



赤字：にぎわい・交流エリアに強く関連する項目を表す。
 緑字：台地エリアに強く関連する項目を表す。
 黒字：両エリアに関連する項目を表す。

III まちの将来像の再検討とまちづくりの基本方針

〔大森駅周辺地区としての課題〕

〔まちづくりのキーワード〕

〔将来像〕

〔まちづくりの基本方針〕

商業の強化、業務拠点の形成による来訪者の増加、集客力アップによるにぎわい・交流の創出

周辺の地域資源を継承・活用した「大森らしさ」の創造・発信

居住者・来訪者にやさしい魅力あるもてなし空間づくり

地域でつなぎ・支える、安心・安全なまちづくり

居住者・来訪者に便利で安全・快適な駅機能強化、駅周辺の都市基盤整備

にぎわい・交流

「大森らしさ（魅力）」の創造・発信

もてなし・快適

安心・安全なまち

くらしのまち

都市基盤の強化

ユニバーサルデザイン

（仮）歴史と文化と浜風がかおる
にぎわいともてなしのまち「大森」

台地部

歴史・文化を未来へつなく、魅力的な住宅地の形成

台地エリア

歴史・文化を未来へつなく、魅力的な住宅地の形成

〈まちづくり方針イメージ〉

歴史・文化を活用し継承するまち

地域の歴史や文化を大切に活用しながら、まちの資源として未来へ継承する。

良好な住宅地を形成し保全されるまち

閑静で安心・安全に便利に住み続けたいと思える住宅地を形成する。

地域活動が充実したまち

住民・商業者・地域団体等とのコミュニティを充実させ、地域連携による住みよいまちづくりを進める。

にぎわい・交流エリア

人が集い、もてなし・交流による、活力あるまちの形成

〈まちづくり方針イメージ〉

にぎわい・活力のあるまち

人々が集まり、来訪者をもてなし、地域との交流を通じて、にぎわいのあるまちづくりを進める。

人のこころを引きつけるまち

「大森らしさ」をつくり、発信していく。

利便性が高く、安心して滞在したくなるまち

都市基盤を強化し、どこからでも訪れやすく、誰でも安心・安全に回遊できるまちづくりを進める。

臨海部

交流・文化を楽しみ、くつろげるウォーターフロントの形成

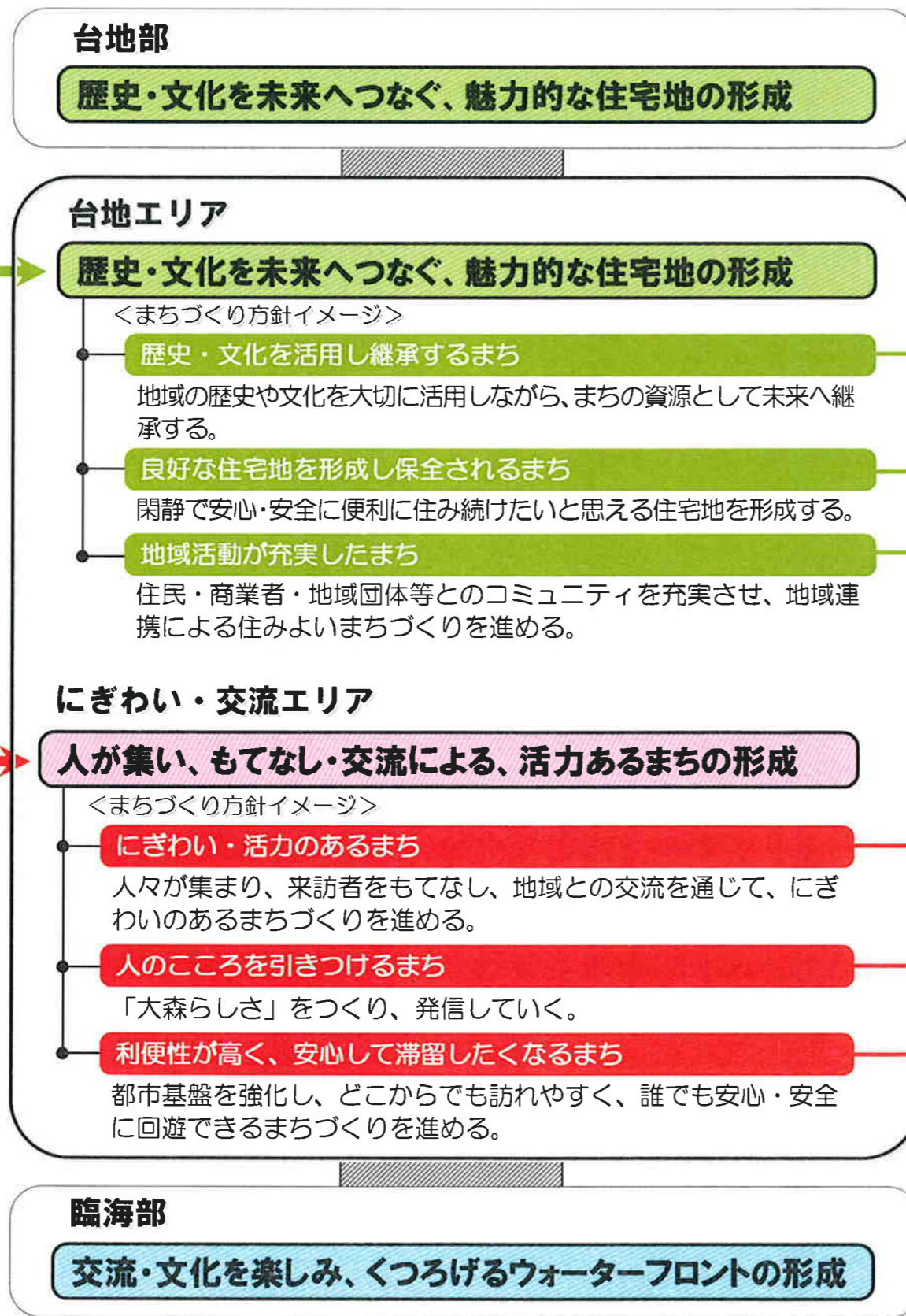
IV まちづくりの基本方針とアクションプラン(具体的取組み)の検討

[将来像]

[まちづくりの基本方針]

[アクションプラン イメージ]

(仮) 歴史と文化と浜風がかおる
にぎわいともてなしのまち「大森」



- 歴史・文化資源の保全・活用 (資源の補修、文土村資料の活用、店舗等としての活用 など)
- 散策ルートを活かした魅力づくり (馬込文土村散策ルートの整備、沿道景観形成 など)
- 緑豊かでうるおいのあるまちづくり (緑の保全、緑化の推進 など)
- 魅力的なまちなみ景観形成 (建築物のまちなみ誘導、景観のルールづくり など)
- 安心・安全な住宅地の形成 (防災に強いまちづくり、建築物等のルール など)
- まちなか交通ネットワークの充実 (コミュニティバス など)
- 地域連携による安心・安全なまちづくり (防災・防犯活動、高齢者の見守り など)
- まつり・行事等の維持・継承 (地域のまつりの実施、イベントの開催 など)
- 回遊性の創出 (商店街等の連携による回遊性の創出 など)
- まつり・イベントの実施 (地域のまつりの実施、商店街等イベントの開催 など)
- ビジネス・業務集積の強化 (機能的なビジネス環境の整備 など)
- 大森ブランドの確立と発信 (大森ブランドの創造・発信、地域資源の発信 など)
- きれいなまちなみ景観の形成 (景観のルールづくり、放置自転車の改善 など)
- 情報発信機能の充実 (インフォメーションセンター など)
- 都市基盤の充実 (池上通りの整備、東口・西口駅前広場の機能強化 など)
- 快適で安心して歩けるまちづくり (ユニバーサルデザイン、わかりやすいサイン計画 など)
- 交通ネットワークの充実と臨海部へのアクセス強化 (駐輪場整備、レンタサイクル、シャトルバスの検討 など)